

学校行事におけるメーリングリスト活用の問題点

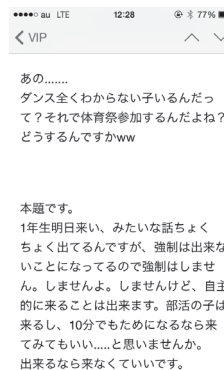
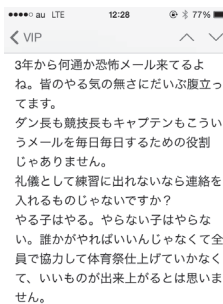
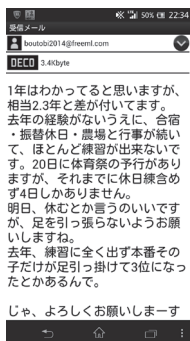
指導部 土方伸子

1. はじめに

本校では、校内におけるスマートフォン・携帯電話（以下、スマホ・携帯）の使用について、特に規制は設けていない。生徒たちは、授業中に電子辞書、電卓代わりに使用することもある。教師からあらかじめ知らされた外部の保存媒体にスマホやタブレットでアクセスし、必要な資料・情報を閲覧しながら授業に臨むこともある。これまで生徒たちの校内でのスマホ・携帯使用が、教員たちの中で特に問題視されたことはない。

しかし、今年度の体育祭直前、上級生からメーリングリストを通じて頻繁に送られてくる体育祭関連のメールの内容に辟易・困惑している下級生たちの姿があった。練習不足の仲間たちを語気荒く非難するメールや校外行事に出かけた下級生たちを、放課後練習に半強制的に呼び戻すメールなどが、メーリングリストを用いて送信されていたのである。また、ガラ携と呼ばれる電話機能重視の携帯電話を使用している生徒などは、体育祭関連のメールを受信しただけで、5,000円の費用がかかっていたこともわかった。それらは今年度に限ったことでなく、生徒たちは不快に感じつつも、生徒間で常態化している実態を、あえて教師に伝える必要はないと判断していたようである。

対人関係が表面化せず、機器の中に潜り込んでしまう現代。生徒たちの間でどのような人間関係が築かれているのか、どのようなやり取りがなされているのか、教師には非常に見えにくくなっている。現在の若者に関する事件や犯罪は、突き詰めていくと全てスマホに当たると言われるほど、その影響力は大きい。これまでのところ、本校でスマホ・携帯に関する悪質なトラブルや大きな事件に巻き込まれたケースは聞いていない。しかし、肌身離さず携帯している本校生徒たちにとって、今後何かしらのトラブルに巻き込まれる可能性がないわけではない。大きなトラブルや問題が発生する前に、予防的な意味も込めて、本校でもスマホ・携帯等の利用について、実態調査を実施することにした。



深夜に上級生から送信されたメール内容の例

2. 調査概要

2.1 方法：アンケート調査

2.2 対象：本校生徒 女子 354 名

(1 年生：121 名、2 年生：114 名、3 年生：119 名)

2.3 実施日：2014 年 10 月 7 日

2.4 回収結果：340 名 (回収率 96.0%)

1 年生：119 名 (98.3%)

2 年生：109 名 (95.6%)

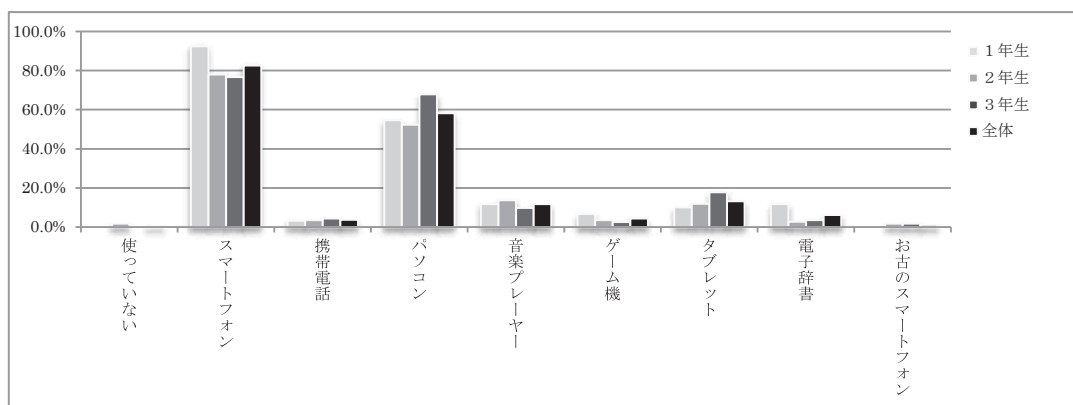
3 年生：112 名 (94.1%)

2.5 アンケート項目

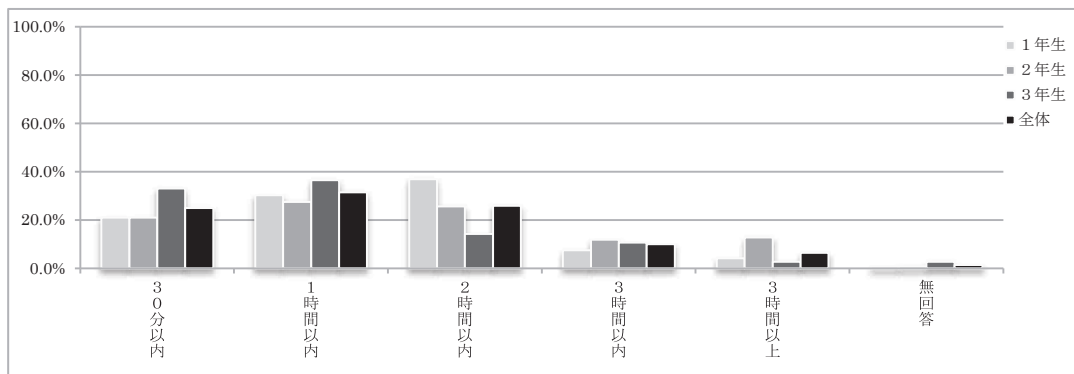
- ・インターネットを利用する時に使用する主な機器
- ・インターネットの一日あたりの使用時間
- ・インターネットの一日の使用時間帯
- ・利用したことのあるサービス
- ・スマートフォン・携帯電話及びその他の携帯端末のフィルタリングについて
- ・スマートフォン・携帯電話及びその他の携帯端末を使用する上で家族と約束していること
- ・スマートフォン・携帯電話使用時に注意していること
- ・メールや LINE をする相手
- ・インターネットに関して、どのような経験をしたことがあるか
- ・インターネット上で情報を発信する時に注意していること
- ・学校生活の中で LINE やメールリングリストを活用して良かった例や悪かった例

3. アンケート結果

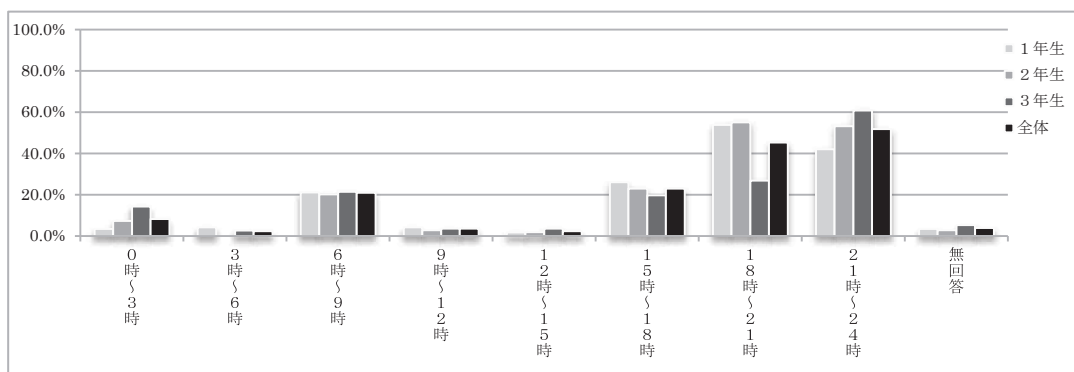
3.1 インターネットを利用する時に使用する主な機器



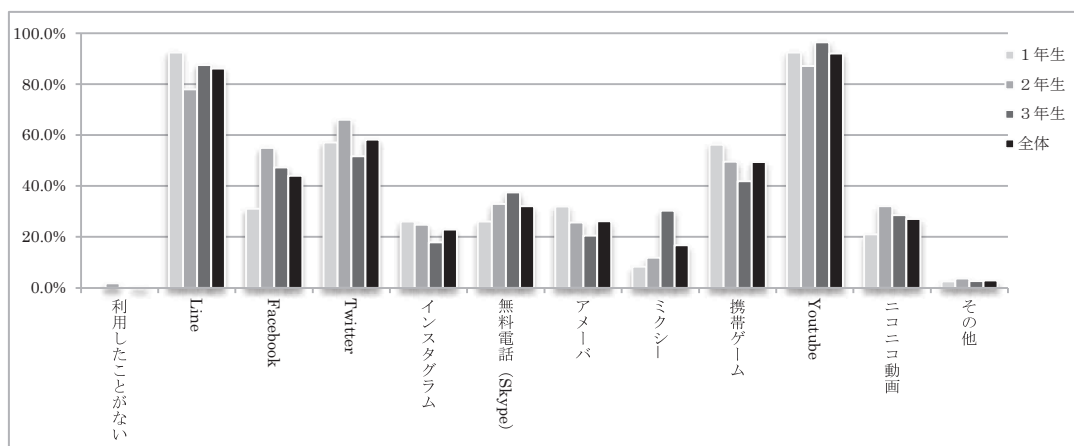
3.2 インターネットの一日あたりの使用時間



3.3 インターネットの一日の使用時間帯（複数回答可）

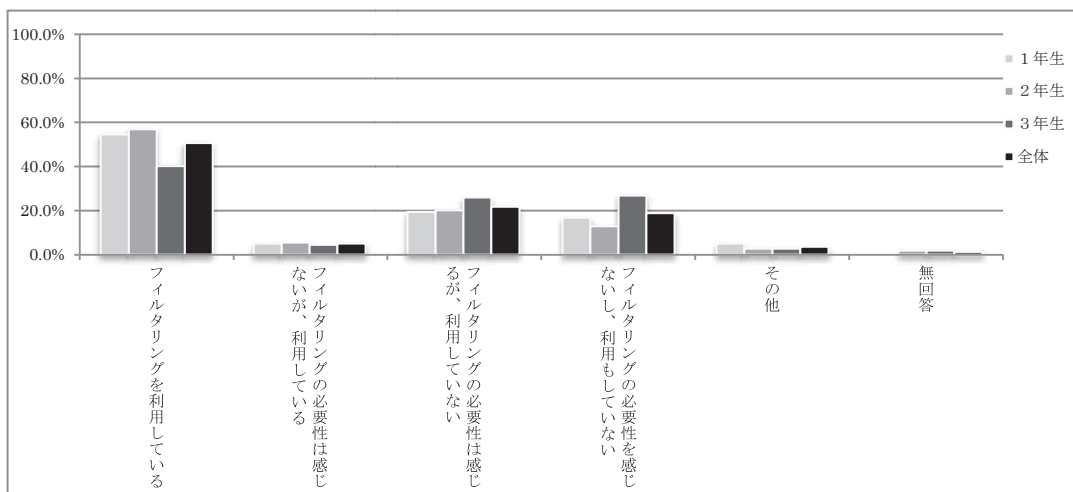


3.4 利用したことのあるサービス（複数回答可）



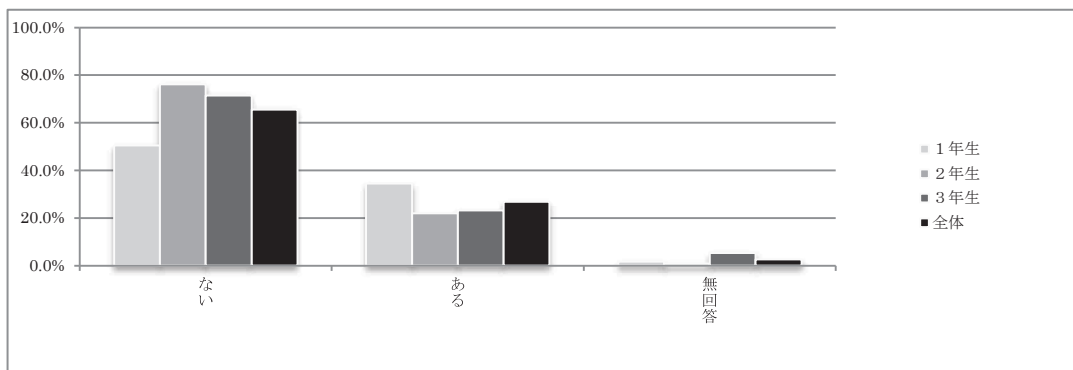
その他記述： 書籍 ・ ツイキャス ・ オンラインゲーム ・ カカオトーク ・ アプリ全般 ・ GREE ・ Pixiv ・ 地震記録 ・ Snapchat ・ what's app ・ study plus

3.5 スマートフォン・携帯電話及びその他の携帯端末のフィルタリングについて



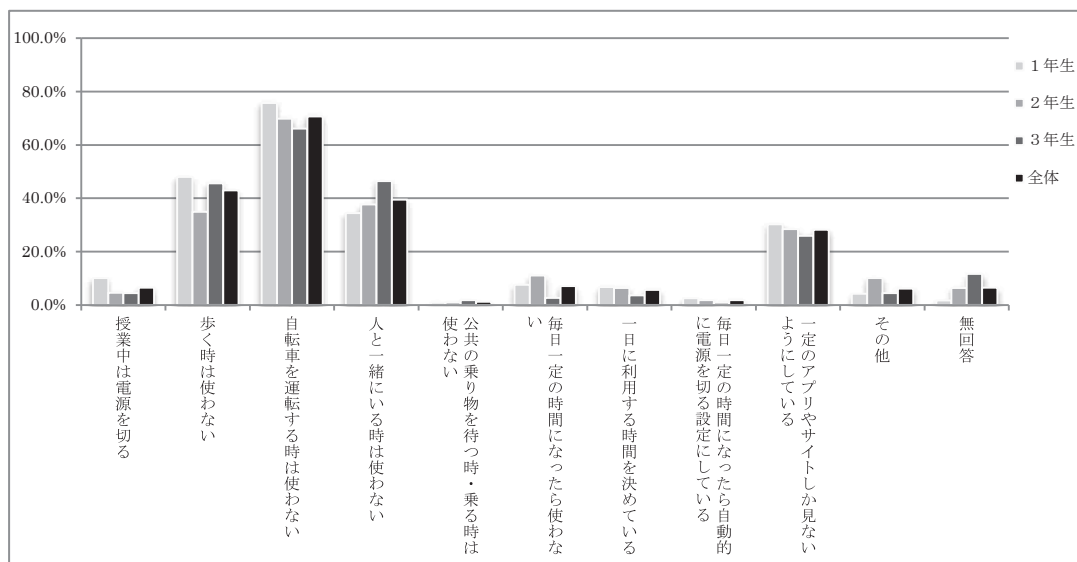
その他記述： わからない 5 ・ フィルタリングって何？ 2 ・ 過去に利用していたが外した 2
 ・ 必要性は感じるが… ・ 携帯を持っていない

3.6 スマートフォン・携帯電話及びその他の携帯端末を使用する上で、家族と約束していること



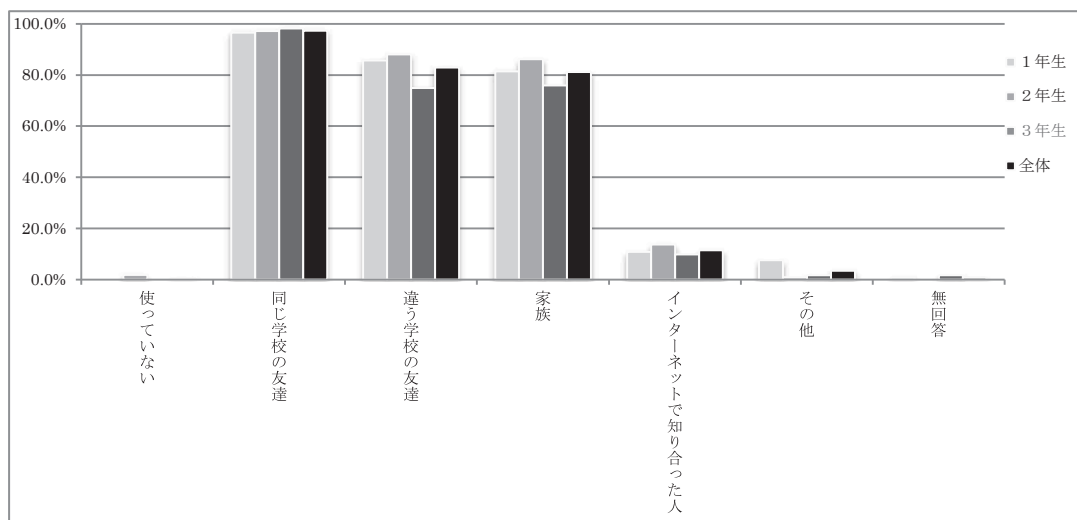
「ある」の記述内容：
 ・ 使用場所制限（自分の部屋では使用禁止 6 ・ リビングに置く 1 0 ・ 夜はリビングで充電 4）
 ・ 使用時間制限 1 1（勉強中 2 ・ 10 時以降の LINE 4 ・ 夕食後 ・ 親の就寝以降）
 ・ 家族といる時 ・ 食事中 など使用しない
 ・ お金が発生するものは相談 / 買わない 1 7 ・ 超過料金は自分で払う
 ・ インターネット接続はしない 2
 ・ 使用容量制限 2 ・ 使いすぎない 8
 ・ 一日 1 時間携帯を提出 ・ 親に使用許可を得る 2
 ・ 人に迷惑をかけない ・ フィルタリングをする ・ 携帯でゲーム禁止
 ・ 充電 3 日以内 ・ 迷惑メール等に気をつける ・ 面倒くさいことはしない

3.7 スマートフォン・携帯電話使用時に注意していること（複数回答可）



その他の記述： テスト前に見ない ・ 授業中常にマナーモード3 ・ 1カ月に7GBを超えない
特に注意していない2 ・ 使いすぎない2 ・ 勉強する時は使わない2（1m以上離れる）

3.8 メールやLINEをする相手（複数回答可）



その他の記述： 習い事/塾/学校の先生3 ・ 知っている人 ・ ♡ ・ 登録しているが連絡しない人
迷惑LINE来た人 ・ 外国人 ・ チャリティー企画関係者（医師・デザイナー・秘書）

3.11 学校生活の中でLINE やメーリングリストを活用して良かった例や悪かった例

【良かった例】

- 連絡を早く正確に伝えられる 66
(会合3 ・宿題・提出物/テスト4 ・持ち物 2 ・部活 2 ・待ち合わせ場所時間)
- 皆が一度に同じ情報を送受信/共有できる 55
- 簡単・便利・手間がかからない 40 / 電話と違い自分のタイミングで情報を得ることができる
- 急な連絡でも、いつでもどこでも伝えたい時にすぐ連絡できる 19
- 気になることがすぐ聞ける 8 (休校の連絡 14)
- 行事の写真販売/写真共有 10
- 統制がとれる 7 ・皆で共通認識を持ってことにあたる
- 集合しなくてすむ 7
- 予定などスケジュール管理ができる 5
- アンケートなど、さっとグループを作って、すぐに情報として発信・収集できる
- すぐに返事が来る / 気軽に意見をもらえる
- サプライズとかでサプライズ相手にバレないように準備できる
- LINE → 大勢で話し合う時便利2/意見交換・相談・テスト質問がリアルタイムでできる6/すぐに物事を決めることができる2/既読がつく3/お金がかからない/メールよりも楽に何度も相手とやり取りできる/簡単にグループを作れる/何かあればすぐに友人に話をしたりできるようになった/スタンプ好き/会話が楽しくなる 2
- メーリス → スマホじゃなかった時ありがたかった/LINE をやっていない人にも伝わる2/どんな人でも受信できる/励まし合いで人間関係スムーズ/メーリスはよい/メーリスは匿名で流せるが、悪質ないじめにつながらないのは、お茶高の良さ
- 係長とかになったら、ないと連絡が大変/持っていない人は大変
- 終礼が短く終わる/3年生は終礼が少ないので連絡事項をメーリスで伝えられるのはいい
- お茶高はあまり具体的な指示をださない所以需要
- お茶高は長期休暇でも活動がたくさんあるので、休日でも連絡が取れるメーリスは便利
- 文化祭の最中にLINE を活用して伝達をした『〇〇が人数足りないってえ〜』など 2
- 動画や写真などを簡単に送受信できる 2
- 体育祭ダンスの練習用動画を添付する 2
- ダンスコンクールの隊形図をLINE で流すことで紙媒体が不要
- 文字に残るので、再確認できる 12
- 紙と違ってなくさない

【悪かった（困った・迷惑だった・不快だった）例】

- 情報格差が生まれる 8
- (メーリス、LINE に入っていないと連絡が届かない 35 ・ ガラケーの人はLINE・写真・動画が見れない 7 ・ LINE をやっていない人の意見が反映されない 3)
- 行事前など「ふざけんな」などの汚い言葉・面と向かっては言わないキツイ言葉などメーリスで使う人がいる 11 / 先輩からの言葉がきつく感じることもある、怖かった、強制っぽかった、嫌だった 6 / メーリスで個人の名前を挙げる 2 / 陰口が書き込まれた / ツイッターで悪口を言われた / 怖いメーリスがくる 2 / 雰囲気悪いメーリス 2
- 通知が変な時間(深夜)にくる 11 ・ LINE・メーリスがあると連絡が遅くなりがち、翌朝のことを深夜に連絡されても困る 4
- 通知が多い・うるさい(切った) 19 / 面倒 10 / 思いつきのような軽いメール(スタンプの貼り合いなど)の中に必要な情報が埋もれてしまう 4
- LINE → LINE に入っていない人への連絡に手間がかかる 5 / 入っているのが普通と思っている人が多い 2 / やっていないと情報共有できない(ダンスの動画等) 2 / 深夜のLINE 会議に参加しなくてはならない / 件数が多く、読まないことが多い / 知らない人が「友だちかも?」に入り、話しかけてくる / 軽く流される / 所属するグループが貯まっていくので不便 / 携帯を開くと気になる / 直接話すよりも情報が正確に伝わりにくい
- メーリングリスト → 広告メール・迷惑メールがくるようになった 17 / メーリスに頼りすぎ・乱発 13 / メーリスに気づかず・携帯が壊れていて・携帯を忘れて困った 12 / 文字化けメールがくる 10 / 登録面倒 4 / 勘違いされた 3 / 何かの不具合で上手く届かない人がいる 3 / 一方通行 2 / 携帯を見ておらず、指定の時間までに送信できずに誤解される 2 / いきなりきたりするから嫌 / 気づかないと怒られる / 体育祭の時期にメーリスを受信しただけで5,000円かかった
- 自分に関係のないメッセージ・内輪ネタも送られ、電池もなくなる 18 / 内容が荒れる 3 / 中身のない内容が送られてくる 2
- グループに入ると知らない間に大量のメッセージが送られていて不快 2 / すごく盛り上がって通知が100通超えなどになり時間をかなり費やす / 年賀状のための住所交換メールが大量に送られた。喪中の人は迷惑なのは… / チェックが大変 2
- 既読したら返さなければいけないなどの恐怖感がある 2 / 既読がつかないと気になる / 全員に伝わっているか不安 3
- 特定の人に送ったつもりメールがメーリスに入っている人全員に送られてしまった 5
- 使い方を間違える人がいる / 一度出したら削除できない

4. 考察

3.1「インターネットを利用する時に使用する主な機器」について、全体では82.6%がスマホを使用しており、3年生76.8%、2年生78.0%、1年生92.4%と学年が下がるほど利用率が高かった。これは、平成26年度総務省情報通信政策研究所の調査結果、女子高校生のスマホ利用率87.2%、学年が下がるほど利用している割合は高い、とほぼ同様の結果であった。スマホに次ぐ主な使用機器はパソコンで、全体58.2%、3年生67.9%、2年生52.3%、1年生54.6%であった。スマホ所持率の低い3年生は、他学年よりもパソコン使用率が高かった。

3.2「インターネットの一日あたりの使用時間」について、各学年の特徴を挙げると、1年生は88.3%が2時間以内の使用（内、1時間以上2時間以内の使用が37.0%）をしており、2時間以上の使用は他学年より少なかった。2年生は3時間以上の使用者が12.8%と他学年（1年生4.2%、3年生2.7%）より多かった。3年生は69.6%が1時間以内であったが、16.1%は2時間以上使用していることがわかった。2年生の長時間使用者が多いのは、入学生でも受験生でもない、中だるみしやすい中間学年の特徴と言えるのだろうか。3年生の2時間以上使用者が受験期真っ最中の10月に16.1%いるという結果も看過できない。スマホ・携帯の使用目的は定かでないが、おそらく学習に関すること以外に多くの時間を費やしているのだろうと推察するならば、生徒たちの意識をもっと学習に向けさせる手だてが必要である。

3.3「インターネットの一日の使用時間帯（複数回答可）」について、通学時間及び放課後以降の利用が多いが、中には各学年5～8名、9時～15時の日課時間帯にも使用をしていることがわかった。

3.4「利用したことがあるサービス（複数回答可）」については、YouTube（全体92.1%、3年生96.4%、2年生87.2%、1年生92.4%）、LINE（全体86.2%、3年生87.5%、2年生78.0%、1年生92.4%）、Twitter（全体58.2%、3年生51.8%、2年生66.1%、1年生57.1%）の順に利用が多かった。平成26年度総務省情報通信政策研究所の調査結果LINE、Twitter、Facebookの順と比較して、本校でYouTubeがよく利用されているのは、学校行事が盛んで、体育祭では応援ダンス、文化祭では様々な発表、そしてダンスコンクールや合唱コンクールと、立て続けにやってくる行事に向けて、YouTubeの動画を参考にする生徒が多いからではないと推察される。

3.5「スマートフォン・携帯電話及びその他の携帯端末のフィルタリングについて」は、利用していない生徒が、全体40.6%、3年生52.7%、2年生33.0%、1年生36.1%であった。記述の中には、フィルタリングがかかっているのかわからない、そもそもフィルタリングの存在を知らない、などがあり、無防備・無頓着なまま使用している生徒がいることがわかった。

3.6「スマートフォン・携帯電話及びその他の携帯端末を使用する上で、家族と約束していること」について、約束をしている生徒たちの約束内容を見ると、使用場所制限（リビングに置いておく、自分の部屋での使用禁止など）、時間制限（〇時以降

の LINE 禁止、家族という時使用禁止など)、料金制限(課金するものは禁止、超過料金は自分で払うなど)、容量制限(○GB以上通信しないなど)、その他インターネットに接続しない、携帯でゲームをしない、親に使用許可を得るなど、親子で一定のルールを設けていた。一方、約束をしていない生徒は、全体 65.6%、3年生 71.4%、2年生 76.1%、1年生 50.4%で、一旦買い与えると、その後の使用については、子どもたち任せになっている家庭が多いのではないかと推察される。年度末、1年生を対象に「考えよう スマホ・携帯、SNS」と題したワークショップ形式の講演を専門家から聴く機会があった。一度インターネット上に上がった写真や文章は完全に消すことができない。就職や推薦入試の際、過去にインターネット上にアップした内容がさかのぼって検索され、内定や合格が取り消されたことがある、というような具体的な事例を聞けば、保護者や生徒たちもインターネットにつながる携帯端末の使用に関して、もっと慎重になるのではないだろうか。子どものみならず、保護者たちも SNS について学習する機会が必要である。

3.7「スマートフォン・携帯電話使用時に注意していること」について、自転車を運転する時は使わない、歩くときは使わない、人という時は使わないという順に多かった。

3.8「メールやLINEをする相手について(複数回答可)」について、同じ学校の友達、違う学校の友達、家族というのが圧倒的に多いが、各学年 10%前後はインターネットで知り合った人と回答していた。

3.9「インターネットに関して、以下のような経験をしたこと(複数回答可)」について、「メールやLINEなどで伝えたいことが相手に伝わらなかったことがある」「メールやLINEなど返事がないと不安」「メールやLINEで嫌な思いをしたことがある」「LINEなどで自分のことがどう書かれているか気になることがある」といった項目は、学年が下がるほど数値が高く、「インターネットで知り合った人に会いに行ったことがある」は、学年が上がるほど数値が高くなっていた(全体 12.1%、3年生 15.2%、2年生 11.9%、1年生 9.2%)。低学年ほど対人関係に神経を使っている様子がうかがえる。

3.10「インターネット上で情報を発信する時に注意していること(複数回答可)」について、「情報発信をしていない」は全体で 26.2%、3年生 33.0%、2年生 22.9%、1年生 22.7%であり、多くの生徒たちが何らかの発信をインターネット上にしていることがわかった。注意している内容を見ると、「知り合いの悪口は書き込まない」(全体 52.6%、3年生 54.5%、2年生 49.5%、1年生 53.8%)が最も多く、次いで「誤解されないように言葉遣いに気をつける」(全体 49.1%、3年生 52.7%、2年生 47.7%、1年生 47.1%)、「自分の位置情報を発信しないようにする」(全体 45.9%、3年生 50.9%、2年生 40.4%、1年生 46.2%)、「自分の情報は書き込むが、公開範囲を限定する」(全体 42.1%、3年生 47.3%、2年生 40.4%、1年生 38.7%)となっていた。

3.11「学校生活の中でLINEやメーリングリストを活用して良かった例や悪かった例」について、良かった例としては、連絡を早く正確に伝えられ、多くの生徒が同じ

タイミングで同じ情報を共有できる、急な連絡でもいつでもどこでも伝えたい時にすぐ連絡できる、などを挙げていた。一方、悪かった例としては、メーリングリストやLINEに入っていないと連絡が届かず情報格差が生じる、面と向かっては言わないキツイ言葉を使う人がいる、LINEやメーリングリストに頼りすぎて連絡が深夜など遅くなりがち、といった点を挙げていた。その他、体育祭の時期にメーリングリストを受信してただけで5,000円かかった、通知が100通超えになり時間をかなり費やしたなどの記述もあった。

連絡手段がメールでなかった時代は、上級生が下級生の終礼にやってきて、ホームルーム担任の許可を得た上で、大きな声で全体に連絡をしていた。終礼をしてる担任にとっては迷惑に感じることもあったが、今となっては生徒間のやり取りや表情を担当が読み取ることができ、好ましい連絡方法であったように思う。急な連絡をいつでもどこでも伝えられるメールの利点はないが、受け手にとっては節度があり、費用もかからず、適切な言葉で、欠席者以外は全員同じ情報を共有することができる。学校行事に関する生徒間の連絡方法については、今後具体的な手立てが必要である。

5. まとめ

本調査のきっかけとなったのは、生徒たちとの立ち話の中で出てきた愚痴である。行事に過熱ぎみの生徒たちの実態を把握するために実施したアンケートであったが、結果を眺めてみると、「学校行事におけるメーリングリスト活用の問題点」のみならず、本校生徒における「インターネットにつながるスマホ・携帯及びその他の携帯端末の利用について」も、いくつかの検討課題が浮かび上がったように思われる。

とりあえず、「学校行事におけるメーリングリスト活用の問題点」については、1年生を対象に、情報科と国語科のコラボレーション授業「考えよう スマホ・携帯、SNS」の中で、生徒たち自身に好ましい使用方法について具体的に考えさせることができた。また、その発展的学習として、専門家によるワークショップ形式の講演も企画され、生徒たちはさらに理解を深めることができたのではないだろうか。2年生には、最上級生になった際、同じ過ちを繰り返さないよう生徒間の連絡方法について、指導部から担任を通じて具体的な提案を示した。これらの学校の対応がどの程度功を奏するのか、まずは次の体育祭に期待したいところである。

次に、アンケート「インターネットにつながるスマホ・携帯及びその他の携帯端末の利用について」の結果から、学年が下がるほどスマホ所持率が高いことがわかった。先日、1年生に小型電卓を貸した際、電卓を片手に持ち、片手で入力し始めたのには驚いた。今後、PCのタイピングができない若者が増えることが予想されているが、本校も他人事ではないかもしれない。その他、「インターネットで知り合った人に会いに行ったことがある」と回答した生徒が、全体で12.1%（3年生15.2%、2年11.9%、1年生9.2%）いること、2年生にインターネットの長時間利用者が多く、3年生でも受験期の10月に2時間以上の使用者が16.1%いることなど、看過できな

いこれらの事実に対し、今後どの様な手立てが必要か検討しなければならないであろう。また、一旦スマホ・携帯を買い与えると、その後の使用に関して子ども任せになっている家庭が半数以上あることも明らかになった。ネット上にアップした内容により就職内定や大学合格が取り消されたケースがある、保護者が子供に関する情報をアップしたことで、その子供が被害に巻き込まれたケースがあるなどの具体的な事例は、保護者にも是非聞いてもらいたい内容である。学校が保護者向けにスマホ・SNSに関する講習会を提供することについても検討した方が良いのかもしれない。

今回のアンケート調査結果を第56回全国国立大学附属学校連盟教育研究大会で報告した（本紀要p 152）際、他の附属校とも比較できたらもっと結果が生きるのではないかとご助言いただいた。アンケート調査を実施しただけで終わらせず、対応・検討可能なものから始め、今回の結果を生徒たちの学びや指導に還元していくことが今後の課題である。

6. 出典・引用

- ・デジタルアーツ株式会社
「スマホ及びその他の携帯端末の利用と利用意識の実態」
- ・お茶の水女子大学附属学校園 ICT フォーラム
一般社団法人 こどもコミュニティサイト協議会「情報モラル教育の最新事情」
- ・平成26年2月 内閣府
「平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果（速報）」
- ・平成26年5月 総務省情報通信政策研究所
「高校生のスマートフォン・アプリ利用とネット依存傾向に関する調査＜速報＞」